

# ティーチング・ポートフォリオ

筑波学院大学 経営情報学部 ビジネスデザイン学科  
周 亜芸

## 教育の責任（2022年度担当科目）

科目名	対象 学年	受講 人数*	授業 形態	必修 選択	科目区分 (カリキュラムにおける位置づけ)
留学生日本語 A1	1	13	授業	必修	総合科目群(外国語科目)
留学生日本語 A2	1	13	授業	必修	総合科目群(外国語科目)
レポート/メールの技術(留学生向け)	3~4	24	講義	選択	専門基礎科目群(ビジネスマネジメント)
論理的思考と文章作成(留学生向け)	2~4	7	講義	選択	総合教養科目群(教養科目)
基礎ゼミ1	1	9	演習	必修	入門科目群
基礎ゼミ2	1	9	演習	必修	入門科目群
基礎ゼミ3	2	14	演習	必修	入門科目群
基礎ゼミ4	2	14	演習	必修	入門科目群

## 教育の理念

グローバル化の進行によって、(1)急激な社会変動、(2)即戦力養成に偏った教育、(3)大量生産・大量消費による地球環境悪化、(4)言語教育におけるパラダイムのシフト：言語と言語話者・人間活動を一体のものと捉える、という背景として、持続可能性日本語教育が提起された（岡崎 2009）。現在はこの持続可能性日本語教育の理念を目指して、教育を行なっている。

持続可能性日本語教育では、グローバル化の変動の下で生きる人々が、どのような環境の下でどのように生活を組み立てているかを知ることを通して、次の三つのことを達成することを目指す。

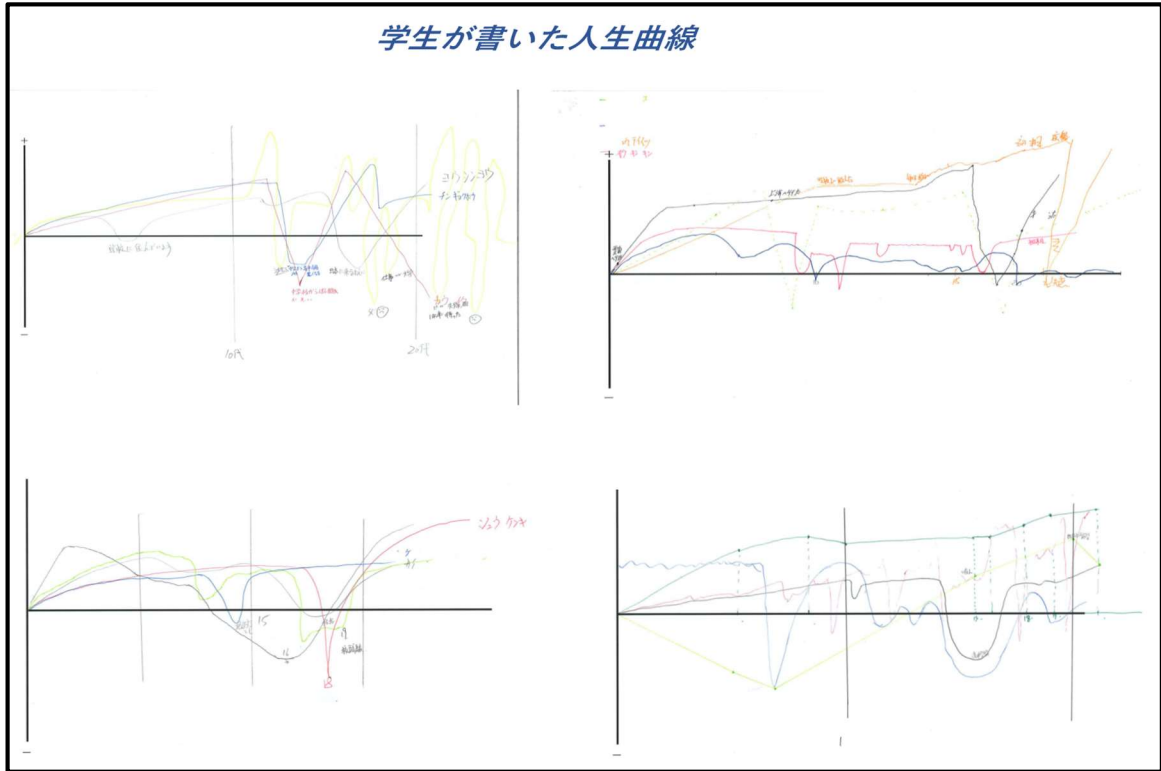
- ① 自分の生活が、世界のコト、モノ、人のつながりと、どのように関わっているか、どのようにつながっているかを、自分を起点（出発点）として理解する。
- ② そのようなつながりの中に編み込まれている自分は、どのように生きてらよいか、例えばライフコースに関わる選択をどのように行えばよいか、その際、他の人とのつながりを自分はどのように持ちたいか、考える。
- ③ 以上をもとにして、自分とは何か、について考え、自分なりの持続可能な生き方を追求していく。

## 教育の方法

留学生日本語 A1・A2 の授業では、新聞記事、アカデミックな文章に使われる漢字・語彙の意味を理解し、学生がグループワークを通してトピックに合わせて自分の意見や主張を発表する。聴解は、発話などの情報源から内容を十分理解した上で、学生同士がペアになって自分と関連する内容を会話練習し、相手の発話をよく考慮しながら自分の意見を述べる。授業ではなるべく学生の生活や勉強、現代社会に関連しやすいトピックやテーマを選び、学生の実生活から素材を考えるように心がけている。

「レポート/メールの技術」と「論理的思考と文章作成」では、大学生が必要となるメール、レポート及び論文作成のスキルを育成することを目指す。異なる場面のメールの書き方、大学生に必要なレポート及び論文の基礎知識、レインアウト及び構成を把握し、それぞれのポイントと注意点を注目しながら、授業でメール、レポート及び論文の見本を見せながら作成練習を繰り返し、最終的に自立的に文章作成できるスキルを身に付けることを追求する。

基礎ゼミ 1・2 では、学生の学習や生活をサポートするだけでなく、学生が現在生きている世界のモノ・コト・人のあり方を認識させ、それらと自分のつながりを辿りながら自分なりの持続可能な生き方を見つけられるような協働活動を工夫し、お互いの意見を共有しながらそれぞれの課題について考える。学生がこのような活動を通して思考力、想像力とコミュニケーション力を培うことで、卒業しても激動するグローバル社会に対して防備ができ、現代社会に主体的、能動的に働きかけることができ、持続可能に生きていけることを目指す。



### 『件の宣言』のワークショップ

**『件の宣言』**  
「入試制度を廃止すべきか」  
D&E 合同ゼミ (06/24)

① 4つのチームに分け、それぞれテーマ及び立場を議論する～  
② テーマごとに議論した内容を発表する～  
③ 発表の発表者は「賛成したい人」より「反対する人」  
④ 最終的に自分の立場の考え方に従って投票する～

「件の宣言」とは何ぞ？

「この制度を維持すべきだ」  
「この制度を廃止すべきだ」

**「宣言」の内容**

- ♠ ①自分の夢を追求し、自分の好きな仕事をするために大学入試で競争することが必要だ。
- ②世界には多くの人がいるが、大学に入れる人は一部の人だけである。だから競争して大学に入るためには入試制度が必要だ。
- ③今は弱肉強食の社会だから、競争しないと負けてしまうので、入試制度が必要だ。

♣ ①一部の人には自分の好きな仕事に就くために大学に入る必要であるが、農業とかような職業は大学に入る必要がない。ゆえに、大学入試は考え直すべきだ。

②人はそれぞれ違うので、大学に入りたくない人もいるが、入りたくない人もいる。ゆえに、大学入試制度を考え直すべきだ。

---

入試制度は……

- ♠ 絶対に守らなければならない(徳用)
- ♣ 守るべきだが、考え直してもいい(徳用)
- ♦ 守るべきだが、考え直してもいい(徳用)
- ♥ 絶対に廃止すべきだ(徳用)

投票の結果:  
入試制度は絶対に守らなければならない

**「宣言」の内容**

- ♦ ①一流大学は入試制度が必要だが、普通の大学は入試制度が必要ない。
- ②大学入試は時間もお金もかかる。特に外国語専攻の入試は様々な資格が要求されるので、このような入試制度は必要がない。
- ③共産主義社会に入ったら大学入試制度をやめるべきだ。

♥ ①大学入試は学生にとってはストレスが大きすぎるから、この制度を廃止すべきだ。

②大学入試の知識はほとんど役に立たないので、大学入試制度を廃止すべきだ。

③人生は短く生きる時間が限られているので、大学入試のためにたくさん時間をかけるのはもったいない。それよりも、もっと他の経験をたくさんしたほうがいい。ゆえに、大学入試制度は廃止すべきだ。

## **教育の成果 および 今後の目標**

授業改善計画報告書を参照。

「今後の目標」としては、「教育の理念」で記載した内容を実現していくことである。

## **参考資料**

- (1)岡崎敏雄(2009) 『言語生態学と言語教育—人間の存在を支えるものとしての言語』 凡人社
- (2) <http://sustainability.nomaki.jp/whatis.htm> 「持続可能性日本語教育とはどんな日本語教育か」